

平成 22 年度 医学共通講義Ⅲ
機能生物学入門
新基盤生命学講義 (GCOE「統合生命学」)



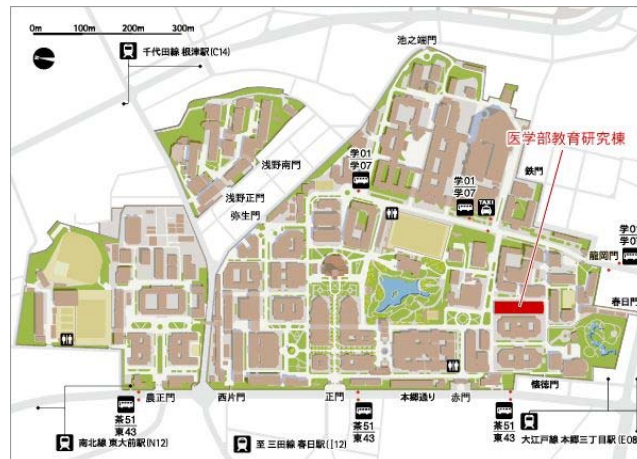
演題: 神経変性疾患 ALS における非細胞自律性の神経細胞死

演者: 理化学研究所脳科学総合研究センター・運動ニューロン変性研究チーム
チームリーダー 山中 宏二

日時: 平成 23 年 1 月 24 日(月) 14:30~16:00

場所: 医学部教育研究棟 13 階 第 6 セミナー室

筋萎縮性側索硬化症(ALS)は運動ニューロンの選択的細胞死を特徴とする神経変性疾患であり, 一部は家族性に発症するが, その原因や治療法が未だ確立していない神経難病である. 本講演では, 最も頻度が高く, ALS の病態をよく再現する動物モデルが作成されてきた SOD1(Cu/Zn superoxide dismutase)優性変異による家族性 ALS の病態解明について, そのトピックスを解説したい. われわれは, これまでに Cre/lox システムを用いて変異 SOD1 遺伝子の発現を細胞群ごとに制御できるモデルマウスの樹立を通じて, ALS における細胞群特異的な病態解明を行い, 非神経細胞であるグリア細胞における病的変化が ALS の疾患の進行過程と運動神経死に積極的に関与していることを示してきた. “非細胞自律性の神経細胞死”と呼ばれるこの概念は, 他の神経変性疾患モデルでも証明されており, 神経変性疾患の病態解明に新たな視点を提供するものである.



【担当教室】 大学院医学系研究科・細胞分子薬理学分野
(教授 飯野 正光)
【問い合わせ先】 医学系研究科 構造生理学教室
TEL : 03(5841)1440
<http://www.bm2.m.u-tokyo.ac.jp/>